



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.60
2015年 7月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

カンボジア就労支援について

日本では今、台風や大雨で大変かと思いますが、カンボジアでは例年に比べて雨が少なく、農作業にも影響が出始めています。地元の農家さんからも水が少ないため田植えが出来ないという話をよく聞きます。SAJFarmでも野菜や、水稻の作付が遅れるなどの影響が出ています。

雨が降ることを願いながら、それでは今月の報告をしたいと思います。

1 週目①:レモングラスの定植完了

今年予定していたレモングラスの定植が全て完了しました。苗は畑に植えてある株を抜き取り、株元の部分を手で分けて作ります。定植は50cmずつ印のついた紐を張り、印の付いた場所に苗を植え付けていきます。紐と紐との間隔は80cmで、耕運機が通れるように空けています。今年は約20haの畑に、約50,000株の苗を定植しました。この後は耕運機で畝間を鋤で株間を耕していきます。除草の意味もありますが、土を耕して柔らかくし、空気を持った状態にすることで根が伸びやすくなり苗の成長を助けるからです。10月頃に収穫開始予定です。より多く生産・出荷できるようにし、地元の農家さんの参考になるよう努力していきます。



レモングラスを定植した畑。たくさん収穫出来るよう頑張って管理します。

1 週目②:クメール語・算数テスト開催

毎週行ってきたクメール語・算数講習の成果を図るため、テストを行いました。80点以上で合格です。クメール語のテストは、聞き取り10問、読み取り10問の計20問出題しました。7人中3人は100点満点でしたが、残念ながら他の4人は合格できず、25点しか取れなかったスタッフもいました。合格したスタッフはクメール語の講習を卒業。残り4人はまだ基本的な母音・子音の部分に不安があるので、そこから学びなおしていきます。算数のテストは足し算引き算が4問ずつ、掛け算割り算6問ずつの計20問出題しました。こちらは最高点が75点で全員不合格でした。掛け算、割り算が出来ないスタッフが多く、桁数が増えると足し算も正答率が下がっていました。そのため、7月は九九の掛け算を覚えてもらうことに力を入れていきたいと思っています。



算数のテストを受けている様子。皆真剣に問題を解いています。

2 週目：地元農家さん向け講習会開催

地元の農家さんに向けて、野菜の講習会を実施しました。今回はミニトマトの作付けについて行いましたが、大人 8 名子ども 2 名の総勢 10 名の方に参加頂けました。まず、簡単に今日の流れを説明した後、目印が着いた紐を使って苗を1m×1m間隔で植えてもらいました。植え終わった後、苗が 30cmほどの大きさになったら、地面に倒れるのを防ぐ為に支柱を立て、紐で支えるよう、またこの時に茎と支柱を一緒に括らず、紐で8の字を作りそれぞれの穴に茎と支柱を入れて括らないと、茎を痛めてしまうことを伝えました。順調に生育すれば1ヶ月半～2ヶ月ぐらいで、収穫出来るようになります。定植が終わった後、農家さんからマンゴーの木を接木する方法や、移植の仕方等の質問があり、ミニトマトの定植後も大いに盛り上がりました。今後も地元の農家さんの役に立つような講習を行いたいと思います。

3 週目：堆肥場の建設、堆肥製造開始

SAJFarm では、今まで鶏糞を養鶏農家さんから買ったものをそのまま散布していましたが、カンボジアのオーガニック認証を得る為には、購入した鶏糞は 3 ヶ月以上堆積して堆肥にする必要があるということで、堆肥場を建て、堆肥の製造を行うことにしました。鉄柱、セメント、トタン板を買い、自分たちで測量し、溶接などを行って、約 1 週間かけて完成しました。堆肥は鶏糞と牛糞を混ぜて作成しました。良い堆肥が出来れば、より良質なレモングラスや野菜、お米が収穫でき、更にカンボジアでのオーガニック認証も得ることが出来ます。作物への効果が確認出来れば講習会で地元の農家さんにも伝えていきたいと思います。

4 週目：スタッフのプロイ君、ヌアン君トラクター初運転

今年 18 歳になったスタッフのプロイ君とヌアン君に、トレーナーとしてチャンダーさんについてもらいトラクターの運転をしてもらいました。最初に運転前の点検をした後、とても便利であると同時に、とても危険で、人の命を奪ってしまいかねないこと、運転する際は周りに人がいないことを十分注意することを伝えました。二人とも戸惑いながらの運転でしたが、機械作業には非常に興味があり、一生懸命運転していました。今後は安全を確保しつつ、乗りながら操作方法を身につけていって欲しいと思います。今まではトラクターの運転などの機械作業は、日本人スタッフとチャンダーさんでやっていました。しかしスタッフの就労の為、機械作業を覚えたほうが良いことと、日本人職員が別の業務に専念できるようにするためにもこれからは 18 歳になったスタッフに機械作業を覚えてもらうようにしていこうと考えています。



ミニトマトを定植している様子。紐の印のあるところに苗を定植していきます。



完成した堆肥場と積み上げた堆肥。全て自分たちの手で行いました。



隣に乗ったチャンダーさんに教えて貰いながら運転しているプロイ君